

6月1日  
聖徒伝 112

# 「主を驚き 讃えよう」

列王記第一 9～10章

シェバの女王の訪問

# アウトライン

0. イントロダクション

I. 神の戒め 9章1～9節

II. ソロモンの業績 9章10～28節

III. シェバの女王の訪問 10章1～13節

IV. ソロモンの栄華 10章14～29節

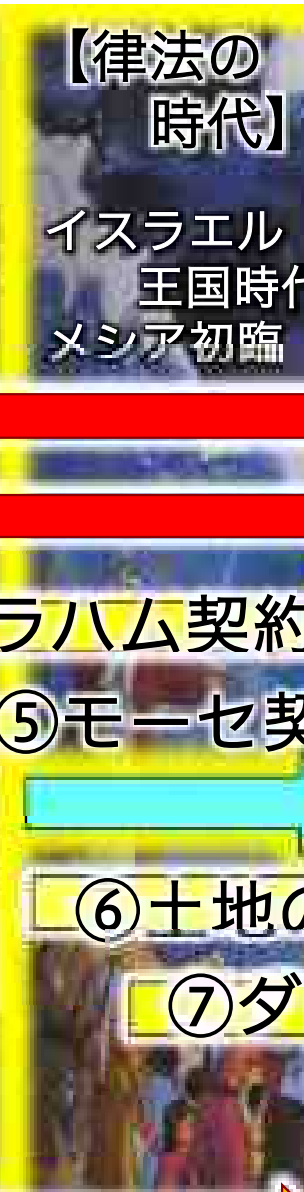
V. まとめと適用

ただ主を驚き讃え、献げよう

シェバの女王の信仰に学ぶ



ハツォル要塞の丘



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

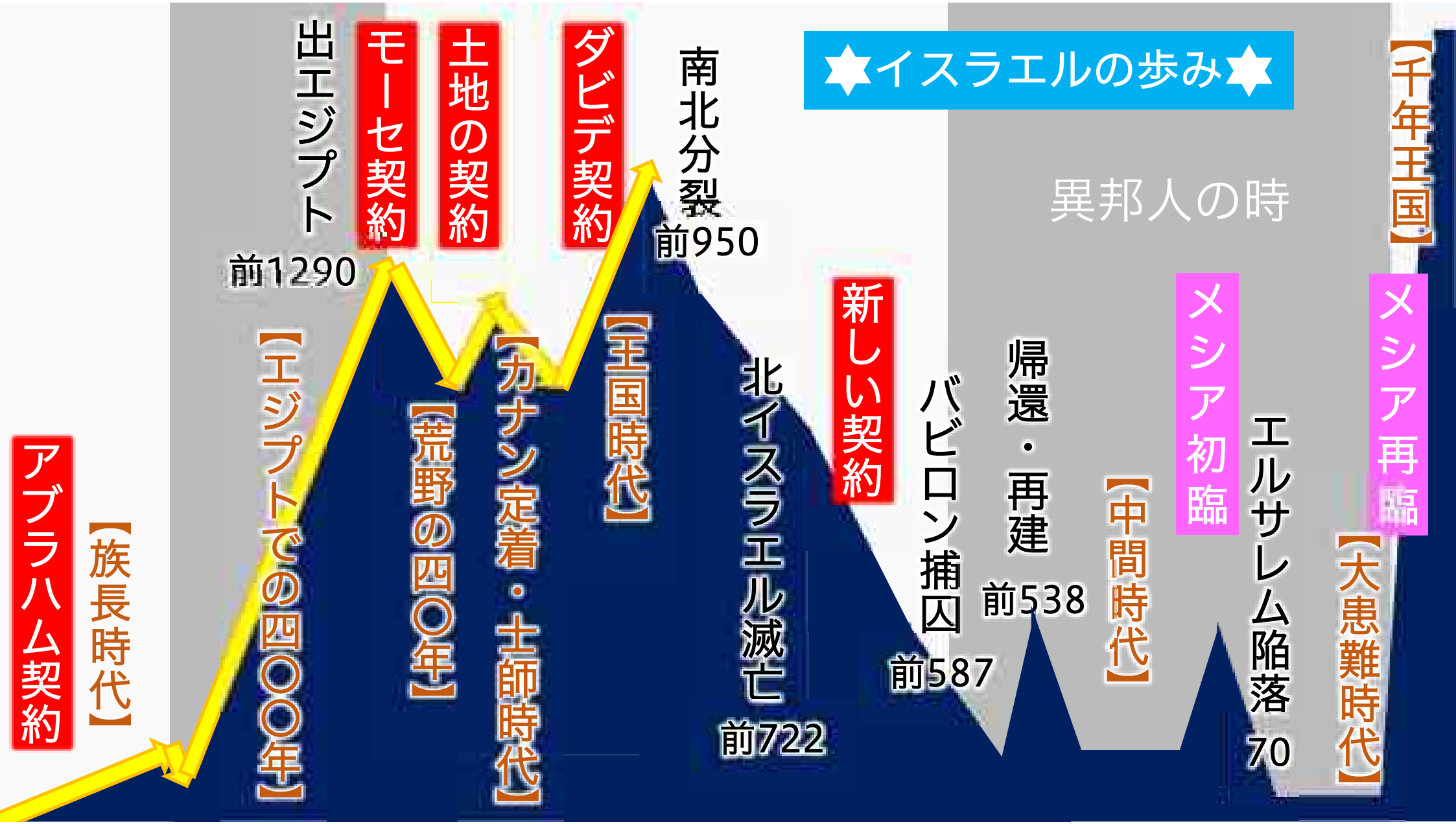
どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト

前1290

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ	
	2〜13章	預言者エリシャ		ホセア	
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王  
★南王国は1王朝に20人の王

即位	1章	アドニヤの謀反 ナタンの忠告 動いたダビデ ソロモンの即位
基盤固め	2章	ダビデの遺言・死 アドニヤの陰謀・死 ヨアブの死 シムイの処刑
知恵	3章	ギブオンでのいけにえ 神の応答 ソロモンの願い ソロモンの裁き
繁栄	4章	ソロモンの政権 行政区 王国の繁栄 ソロモンの知恵
神殿建設	5～8章	職人、労働者 神殿の構造 祭具の構造 神殿の完成 神殿奉獻
名声	9～10章	ソロモンへの神の約束 建設事業 その他の業績 シェバの女王 栄華
背教と死	11章	ソロモンの背教 神の裁き 外的の出現 内的の台頭 ソロモンの死

## イスラエルの王の系譜

## サウル～ダビデ～ソロモン

- 最初の王**サウル**は、主に背き、王権を剥奪され、非業の死を遂げた。
- サウル**亡き後、王となった**ダビデ**は、戦いを重ね、周辺国を平定。**エルサレム**を都とし、**神殿**の設計図を記し、建材を準備した。
- 年若き王**ソロモン**は、神に、民を治めるための知恵を願った。御心に適った願いに、神は、富と誉れをも加えて与えられた。
- ソロモン**は**神殿建設**を着工。7年を経て完成。主に**奉献**した。王は民を代表して主に祈り、全イスラエルは盛大に祝った。

# I. 神の戒め

I 列王記9章1～9節



神殿の再現図



## 【主の顕現】 | 列王記9:1～2

ソロモンが、【主】の宮と王宮、および、ソロモンが造りたいと望んでいたすべてのものを完成させたとき\*、【主】は、かつてギブオン\*で現れたときのように、ソロモンに再び現れた。

\*ソロモンが、7年かけて神殿を築き、奉獻し、さらに13年かけて王宮を完成させた、その後。

\*即位後、ソロモンが膨大ないけにえを献げた地。この時現れた主は、ソロモンの願いを聞き、知恵を与え、さらに栄誉と富をも約束された。



## 【主に聞かれた祈り】 | 列王記9:3

【主】は彼に言われた。「あなたがわたしの前で願った祈りと願いをわたしは聞いた。わたしは、あなたがわたしの名をとこしえに置くために建てたこの宮を聖別した。わたしの目と心は、いつもそこにある\*。」

■ ソロモンの祈り(8章)は、主に聞かれた。

➔ 主の契約に基づく、神の御心に適う祈り。

\* 主が聖別され、目をとめられる神殿を中心に、主の**律法**に忠実に従い続けられるかどうか。

➔ これがイスラエルの運命を決める!!



## 【主の掟と定め】 Ⅰ列王記9:4～5

「もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、  
全き心と正直さ\*をもってわたしの前に歩み、わたしが  
あなたに命じたことすべてをそのまま実行し、わた  
しの掟と定め\*を守るなら、わたしが、あなたの父ダ  
ビデに『あなたには、イスラエルの王座から人が断た  
れることはない』と約束したとおり、あなたの王国の  
王座を\*イスラエルの上にとこしえに立たせよう。」

\*主への全面的信頼、神に対する正直さ

\*モーセの律法、ダビデ契約

■ダビデの系譜は主が守られる。ソロモンの系譜が  
メシアにつながるかどうかは、ソロモン次第\*。



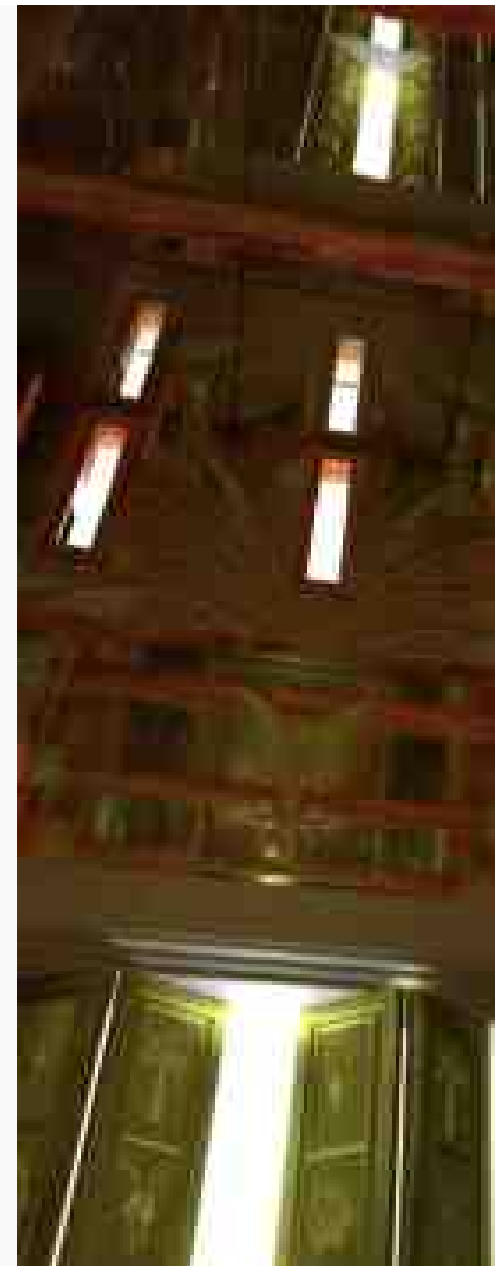
## 【背きへの裁き】 | 列王記9:6~7

もし、あなたがたとあなたがたの子孫が、わたしに背を向けて離れ、あなたがたの前に置いたわたしの命令とわたしの掟を守らずに、行ってほかの神々に仕え、それを拝むなら、わたしは彼らに与えた地の面からイスラエルを断ち切り、わたしがわたしの名のために聖別した宮をわたしの前から投げ捨てる。イスラエルは、すべての民の間で物笑いの種となり、嘲りの的となる。

■イスラエルが律法を破り、偶像礼拝の罪に陥るなら、

①約束の地を追われ、異邦人の地で捕囚となる。

②神殿が破壊される。



## 【神の裁きの結果】 | 列王記9:8~9

この宮は廃墟となり、そのそばを通り過ぎる者はみな驚き恐れてささやき、『何のために、【主】はこの地とこの宮に、このような仕打ちをされたのだろうか』と言う。人々は、『彼らは、エジプトの地から自分たちの先祖を導き出した彼らの神、【主】を捨ててほかの神々に頼り、それを拝み、それに仕えた。そのため【主】はこのすべてのわざわいを彼らに下されたのだ』と言う。」

■ 土地の契約(申命記29章)の警告の再確認。

神の偉大さを、**従順と繁栄をもって証し**するか。

裁きの結果により**恐れ**を抱かせるか。

どちらを  
選ぶのか？





## II. ソロモンの業績

I 列王記9章10～28節

ソロモンが築いたゲゼル要塞の遺跡

## 【贈り物とされたガリラヤ】 | 列王記9:10~11

ソロモンが【主】の宮と王宮との二つの家を二十年かけて建て終えたとき、ツロの王ヒラムが、ソロモンの要請に応じて、杉の木材、もみの木材、および金を用立てたので、ソロモン王は**ガリラヤ地方\***の二十の町をヒラムに与えた。

嗣業の地を  
異邦人に!!

\*後に主イエスの宣教の舞台となる**ガリラヤ**だが、旧約全体で6回しか出てこない。

➡最北の逃れの町がある領土の北端(ヨシュア20:7)

➡“異邦人の**ガリラヤ**は栄光を受ける”(イザヤ9:1)

イザヤ書のメシア預言の言及はむしろ不思議。



## 【ないに等しい町々】 | 列王記9:12~14

ヒラムはツロからやって来て、ソロモンが彼に与えた町々を見たが、彼はそれらが気に入らなかった。

彼は、「兄弟よ。あなたが私に下さったこの町々は、いったい何ですか」と言った。そのため、これらの町々はカブル\*の地と呼ばれ、今日に至っている。


ヒラムは王に金百二十タラント(4t)を贈っていた。

\*海洋貿易王ヒラムは、山や湖には無関心だった？

\*“ないに等しい”

■ イエスの時代のガリラヤ地方の扱いも同様。

「メシアがガリラヤから出るだろうか(ヨハ7:41)」



メシアは、  
ないに等しい町々  
から現れる!!



## 【ソロモンが築いた要塞】 | 列王記9:15～16

ソロモン王は役務者を徴用して次のような事業をした。彼は【主】の宮と自分の宮殿、ミロ\*とエルサレムの城壁、ハツォルとメギドとゲゼル\*を築き直した。

かつてエジプトの王ファラオは、上って来てゲゼルを攻め取り、これを火で焼き\*、この町に住んでいたカナン人を殺して、ソロモンの妻である自分の娘に結婚の贈り物としてこの町を与えた。

\*エルサレムの城壁に立てられた要塞・塔か？

\*いずれも要所にある古代からの要塞の町。

\*ゲゼルの遺跡から、焼け跡が出土。



## 【イスラエルの防衛網】 | 列王記9:17~19

ソロモンはこのゲゼルを築き直したのである。また、下ベテ・ホロン、バアラテ、この地の荒野にあるタデモル、ソロモンの所有するすべての倉庫の町々、戦車のための町々、騎兵のための町々、またソロモンがエルサレム、レバノン、および彼の全領地に建てたいと切に願っていたものを建てた。

- ソロモンは領内の道路網を整備し、  
要所に要塞を築き、戦車隊、騎兵隊を配備した。



## 【カナンの生き残り】 | 列王記9:20~21

イスラエル人ではない、アモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人\*の生き残りの民すべて、すなわち、この地に残されていた人々、イスラエル人が聖絶できなかつた人々の子孫を、ソロモンは強制労働に徴用した。今日に至るまで、そうである。

\*カナンの地に先住していた代表的な部族。

■ヨシュアに聖絶が命じられていたが、イスラエルの不信仰のために、多くが残っていた。



カナンのバアル神像

## 【イスラエルの民の働き】 | 列王記9:22～23

しかし、ソロモンはイスラエル人を奴隷にはしなかった\*。彼らは戦士であり、彼の家来であり、隊長であり、補佐官であり、戦車隊や騎兵隊の長だったからである。ソロモンには工事の監督をする長が五百五十人いて、工事に携わる民を指揮していた。

\*神がエジプトの奴隷から導いたイスラエルを

再び奴隷とすることは、律法が禁止(レビ25:39)

■ 来たるべき千年王国の影がうかがえる。

➡イスラエルは王(メシア)の民として世界を統治。



## 【聖別された都と神殿】 | 列王記9:24～25

ファラオの娘が、ダビデの町から、ソロモンが彼女のために建てた家の上に来て\*とき、ソロモンは三口(警護の要塞か?)を建てた。ソロモンは、【主】のために築いた祭壇の上に、一年に三度\*、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ、それらとともに【主】の前で香をたいた。彼は神殿を完成させた。

\* 聖なる神殿から異邦人の妻を隔離(II 歴8:11)

\* 三大祭(過越祭、五旬祭、仮庵祭)を守っていた。

■ 神殿完成当初、ソロモンは宮を厳格に聖別し、主の祭りも、ささげ物も絶やさなかった。



## 【ソロモンの船団】 | 列王記9:26～28

また、ソロモン王は、エドムの地の葦の海の岸边にあるエイラトに近いエツヨン・ゲベルに船団を設けた。

ヒラムはこの船団に、自分のしもべで海に詳しい水夫たちを、ソロモンのしもべたちと一緒に送り込んだ。

彼らは**オフィル\***へ行き、そこから四百二十タラント(14t)の金を取って、ソロモン王のもとに運んだ。

\*アラビア半島南端？エチオピア？

女王訪問の布石

■イスラエルが初めて所有した船団は、貿易によりソロモンに莫大な富をもたらし、名声を広げた。



### III. シェバの女王の来訪

I 列王記10章1～13節



レリーフ・イタリア

## 【シェバの女王の来訪】 | 列王記10:1

ときに、**シェバ\***の女王は、【主】の御名によるソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試そうと\*してやって来た。

\*アラビア半島南端、現在のイエメン。

古代から貿易の商業地として栄えた。

\*外交儀礼・ゲームとして行われてきた。

■ 貿易を通してソロモンの名声を聞いた？  
友好関係を結び、イスラエルと交易することも重要な目的の一つだっただろう。



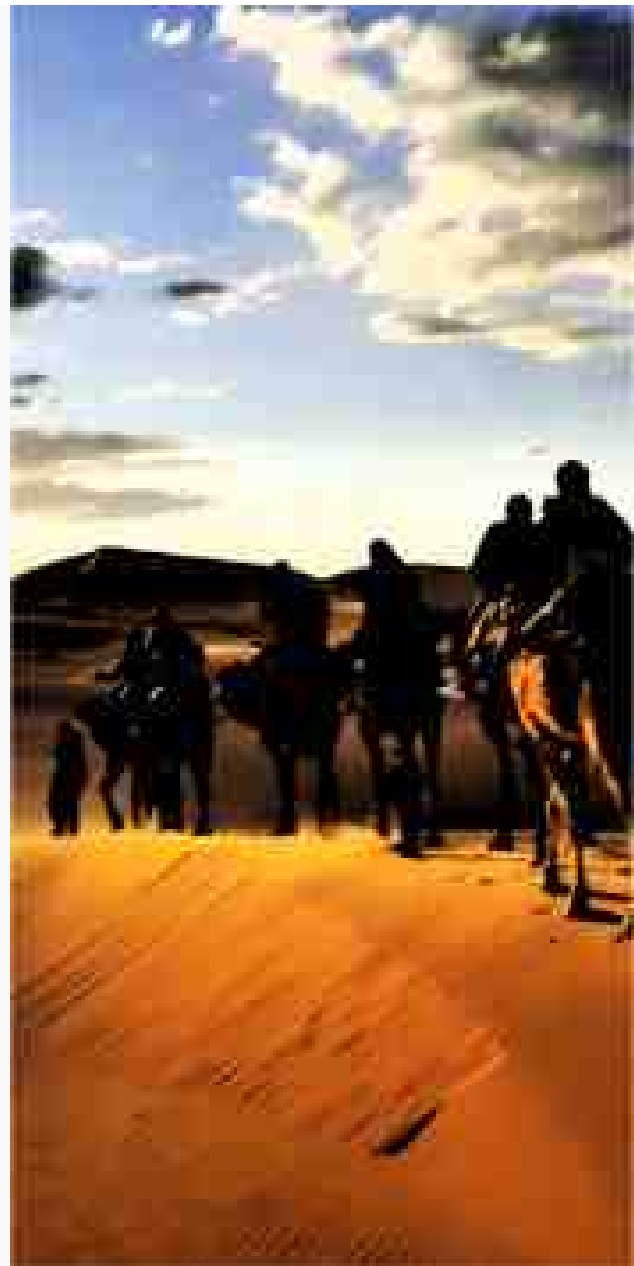


## 【女王の問い】 | 列王記10:2~3

彼女は非常に大勢の従者を率い、**バルサム油\***と非常に多くの金および宝石をらくだに載せて、エルサレムにやって来た。彼女はソロモンのところに来ると、心にあることをすべて彼に問いかけた。

ソロモンは、彼女のすべての問いに答えた。王が分からなくて、彼女に答えられなかったことは何一つなかった。

\*ミルラ、乳香か？



## 【驚嘆する女王】 | 列王記10:4~5

シェバの女王は、ソロモンのすべての知恵と、彼が建てた宮殿と、その食卓の料理、列席の家来たち、給仕たちの態度とその服装、献酌官たち、そして彼が

【主】の宮で献げた全焼のささげ物を見て、息も止まるばかりであった。

■何より女王の心を揺さぶったのは、  
神殿での主への全焼のささげ物。

➡信仰的感性があつてこそ!!



## 【女王の感嘆の言葉】 | 列王記10:6~7

彼女は王に言った。「私が国であなたの事績とあなたの知恵について聞き及んでいたことは、本当でした。

私は自分で来て、自分の目で見るとまでは、そのことを信じなかったのですが、なんと、私にはその半分も知らされていなかった\*のです。あなたの知恵と繁栄は、私が聞いていたうわさより、はるかにまさっています。」

\*尾ひれのつくうわさを上回る驚愕の事実が。



## 【女王の賛美】 | 列王記10:8~9

なんと幸せなことでしょう。あなたにつく人たちは。なんと幸せなことでしょう。いつもあなたの前に立って、あなたの知恵を聞くことができる、このあなたの家来たちは。 あなたの神、【主】がほめたたえられますように。主はあなたを喜び、イスラエルの王座にあなたを就かせられました。【主】はイスラエルをとこしえに愛しておられるので、あなたを王とし、公正と正義を行わせるのです。」

■主こそ、イスラエルの王を守り導く唯一の神。

→ほとんど信仰告白に等しい女王の賛美。



## 【交易による富】 | 列王記10:10~12

彼女は百二十タラント(4t)の金と、非常に多くのバルサム油と宝石を王に贈った。シェバの女王がソロモン王に贈ったほど多くのバルサム油は、二度と入って来なかった。

また、オフィルから金を積んで来たヒラムの船団は、非常に多くの白檀\*の木材と宝石を、オフィルから運んで来た。王はこの白檀の木材で、【主】の宮と王宮のための柱を作り、歌い手たちのための豎琴と琴を作った。今日まで、このような白檀の木材が入って来たことはなく、見られたこともなかった。

\*香りが良く白い木肌の美しい、希少な高級木材



## 【女王の帰還】 I 列王記10:13

ソロモン王は、シェバの女王が求めたものは何でもその望みのままに与えた\*。さらに、ソロモン王の豊かさにふさわしいものも彼女に与えた\*。彼女は家来たちを連れて、自分の国へ帰って行った。

\*並外れたソロモン王の豊かさを示すこと。

➔女王は、祝福の源が**主**であると知った。

■南の貿易大国シェバの女王によって広がった、イスラエルの王の神、主の御名。

**主を証しすることこそ、信仰者の重大な使命**





## IV. ソロモンの栄華

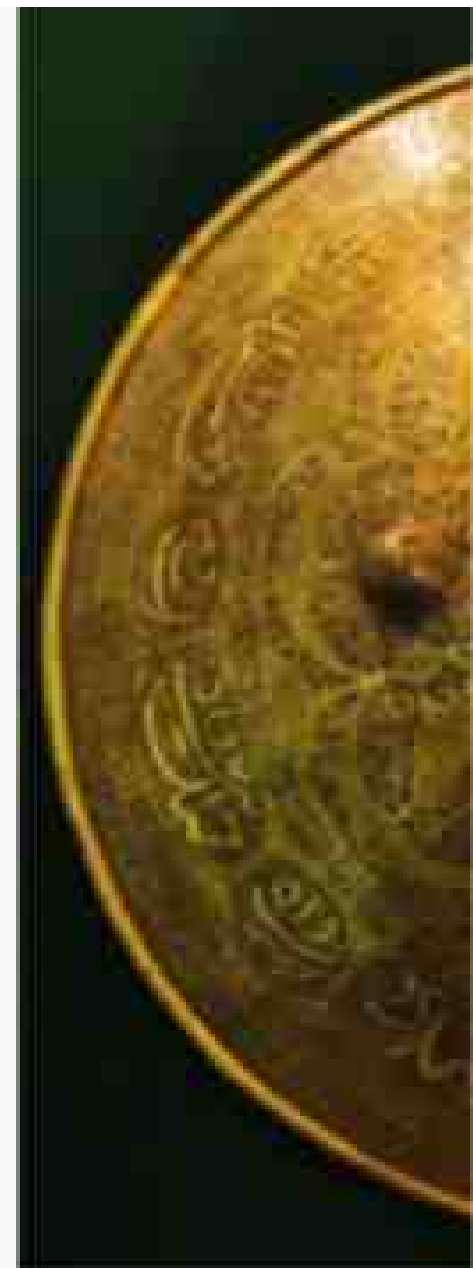
Ⅰ 列王記10章14～29節

## 【金の盾】 | 列王記10:14

一年間にソロモンのところに入って来た金の重さは、金の目方で六百六十六タラント(約22t)であった。このほかに、隊商から得たもの、貿易商人の商いで得たもの、アラビアのすべての王たち、およびその地の総督たちからのものがあった。

ソロモン王は、延べ金で大盾二百を作り、その大盾一つに六百シェケル(6.8kg)の金を使った。また延べ金で盾三百を作り、その盾一つに三ミナ(1.7kg)の金を使った。王はそれらを「レバノンの森の宮殿」に置いた。

\* 宮殿で使用した儀式用の盾。金の使用量は、計1.8t。





## 【ソロモン王の玉座】 | 列王記10:18~20

王は大きな象牙の王座を作り、これに純粋な金をかぶせた。王座には六つの段があり、その王座の背の上部は丸かった。座席の両側に肘掛けがあり、その肘掛けのわきには二頭の雄獅子が立っていた。

また、**十二頭の雄獅子\***が六つの段の両側に立っていた。このような物は、どこの王国でも作られたことがなかった。

\*イスラエル12部族を象徴するものだろう

➡獅子は、ユダ族のシンボルでもあり、  
メシアのシンボルとしても用いられる。



## 【ソロモンの黄金】 | 列王記10:21~22

ソロモン王が飲み物に用いる器はすべて金であった。「レバノンの森の宮殿」にあった器もすべて純金で、銀の物はなかった。銀は、ソロモンの時代には価値あるものとは見なされていなかった\*。

王が海にヒラムの船団のほかにタルシシュの船団\*を持っていて、三年に一度、タルシシュの船団が金、銀、象牙、猿、孔雀を運んで来たからである。

\*銀はもはや量られてもいない。

\*地中海沿岸の諸国と海上交易をしていた？



## 【全世界の民による謁見】 | 列王記10:23~25

ソロモン王は、富と知恵において、地上のどの王よりもまさっていた。

全世界は\*、神がソロモンの心に授けられた知恵を聞こうとして、彼に謁見を求めた。彼らはそれぞれ贈り物として、銀の器、金の器、衣服、武器、バルサム油、馬、ろばなどを、毎年携えて来た。

\*文字通り全世界がエルサレムに上るのが、千年王国。

■神の知恵がもたらしたソロモンの栄華は、来たるべきメシアの王国の影にすぎない。

→その視点からの「全世界」という強調。



## 【増強される軍事力】 | 列王記10:26～27

ソロモンは戦車\*と騎兵を集め、戦車千四百台と騎兵一万二千人を所有した。彼はこれらを戦車の町々、およびエルサレムの王のもとに配置した。

王はエルサレムで銀を石のように用い、杉の木をシェフェラのいちじく桑の木のように大量に用いた。

### \*当時の地上最強兵器。

申 17:16 ただし王は、決して自分のために馬を増やしてはならない。馬を増やすために民をエジプトに戻らせてはならない。【主】は「二度とこの道に戻ってはならない」とあなたがたに言われた。

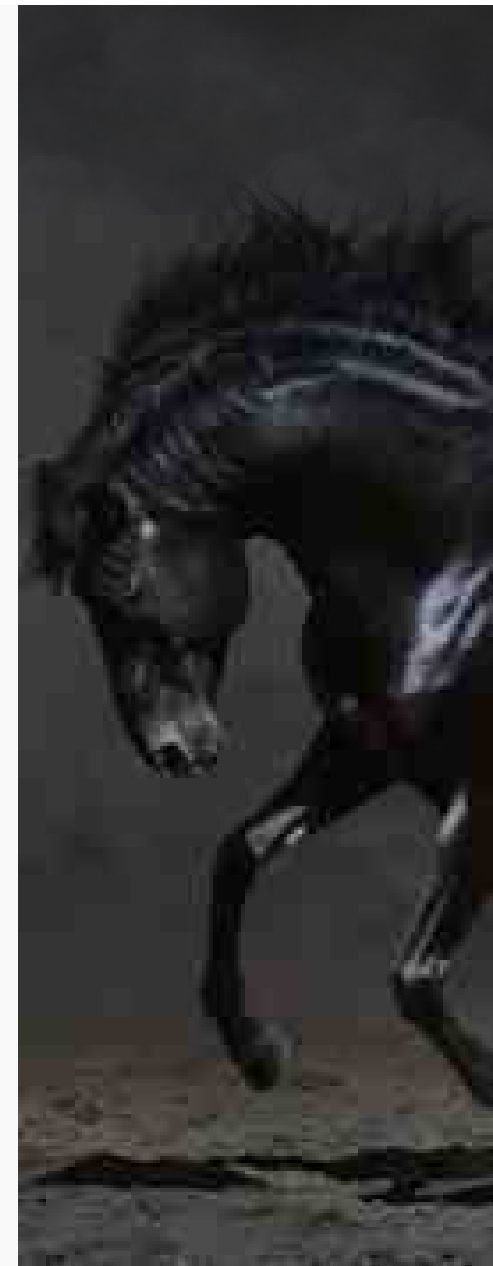


## 【エルサレムの武器商人たち】 | 列王記10:28

ソロモンが所有していた馬は、エジプトとクエから輸入されたもので、王の商人たちが、代価を払ってクエから手に入れたものであった。

戦車はエジプトから銀六百、馬は銀百五十で買い上げられて、輸入された。同様に、ヒッタイト人のすべての王やアラムの王たち\*にも、王の商人たちの仲買で輸出された。

\*後に強国となった彼らに、背教のイスラエルは、苦しめられることとなっていく…。





## V. まとめと適用

ただ主を驚き讃え、献げよう  
シェバの女王の謙遜に学ぶ

## 【栄華を極めたソロモンに差す影】

- 主がソロモンに与えた**知恵**を求め、世界中から集った人々。  
交易によって莫大な富を得、軍事力を増強したソロモンだが…。
- 律法の命令は、馬を増やすな、過剰に金銀を持つな(申17:16~17)  
栄光を極めた中に、影が差す。
- 聖書が記すのは、「昔はよかった」という話ではない。  
神の民に求められるのは、過去の栄光にしがみつくのではなく、  
**約束された将来の究極の栄光**を見上げ、心にとめること。

## 【メシア・主イエスによるソロモンの評価】

「マタイ6:29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。」

■贅を尽くしたソロモンの衣装も、一輪の野の花に劣る。

どんなに優れた人の手の技も、創造主のみ業に遠く及ばない。





## 【主イエスも認めたシェバの女王の信仰】

■ マタ 12:42 南の女王が、**さばきのとき\***にこの時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし見なさい。ここにソロモンにまさるものがあります。

**\*さばきのとき** …主イエスが裁き主となる千年王国の時代

■ すべての不信仰者は、信仰者によって裁かれる時が来る。

ソロモンに現れた**神の知恵を求め、主を讃えた**女王は確かな信仰者。

■ ソロモンに勝る知恵。➡神の知恵そのものである**メシア**。イエス。

**最も知恵ある者は、主の約束を信頼し、ただメシアを切望する。**

## 【シェバの女王の信仰に学ぼう】

- ソロモンの知恵と栄華に、素直に驚嘆し、称賛した女王の謙遜。
- 素晴らしいものを見て、心から素晴らしいと言える、素晴らしさ。
- 女王が、息も止まるほど驚いたのは、神殿での主へのささげ物。
- 女王の謙遜が、メシアに讃えられるほどの信仰に彼女を導いた。  
2.000kmの旅路を経て主の知恵を求めた者に、主が応えられた。

**求めよ、さらば与えられん。常にこの信仰の原則を歩もう。**

## 【嫉妬心を乗り越えるために】

- 素直に他者の喜びを喜べない。心にうごめく嫉妬が祝福を妨げる。
- 自分で埋められない欠けを、他者が持っていると感じると嫉妬する私たち。裏にある感情、願望を素直に認めよう。感嘆も、うらやましさも。
- 克服の道は、他者を具体的に**祝福**すること。嫉妬するなら**祝福**せよ。  
例) 過疎地の牧師の就任式に駆けつけて祝福した結果。  
→ シェバの女王は、渾身の**祝福**をささげ、はるかな神の**祝福**を得た。
- 本人の苦難は、他人の目に見えないことも意識しよう。  
→ たやすく主の祝福を得る道など存在しない。主に通じる門は狭い。

## ■ 箴言22章1～6節 ■

22:1 名声は多くの富より望ましく、  
愛顧を受けることは銀や金にまさる。

22:2 富む者と貧しい者が出会う。  
どちらもみな、造られたのは【主】である。

22:3 賢い者は わざわいを見て身を隠し、  
浅はかな者は 入って行って痛い目にあう。

## ■ 箴言22章1～6節 ■

22:4 へりくだりと、【主】を恐れることの報いは、  
富と誉れといのち。

22:5 曲がった者の道には 茨と罾がある。

たましいを守る者は これらから遠く離れる。

22:6 若者をその行く道にふさわしく教育せよ。

そうすれば、年老いても、それから離れない。

## 【主にささげて満たされていく、信仰者の生涯】

箴言22:6 若者をその行く道にふさわしく教育せよ\*。

そうすれば、年老いても、それから離れない。

(\*教育する“ハナク” →神殿奉獻の“奉獻”と同じ語)

■ “子を教育する”のは、“子を主に献げる”こと。

聖書を学ぶとは、自分自身を主に献げることに他ならない。

→どう献げるかは、あなた自身が主から個人的に聞きとるべきこと。

■ 万人祭司が、プロテスタントの根本教理。

祭司とは、生涯を主にささげ、神に所有された者。

**主に仕える祭司として、私の生涯すべてを主にささげよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、  
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、  
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、  
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。  
たくさんの欠(か)けあるわたしを、主は、御子(みこ)のゆえに  
完全(かんぜん)なものと みなしてくださいます。  
よろこんで この身をおささげします。  
どうか、主のご用(よう)のために 用(もち)いてください。  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」